

ミッション

安全はすべてに優先する

安全は私たちブリヂストンの企業経営の基盤です。安全な職場で安心して働くために一人ひとりが実践します。また、その活動範囲は、バリューチェーン全体を対象として、安全活動を推進しています

ブリヂストングループは2012年、「安全宣言」をリファインしました。「安全宣言」は、従業員、協力会社、当社グループ施設へのご訪問者の方を対象としています。安全の重要性がますます高まっていることを認識し、2019年に全従業員を対象に安全教育を実施したほか、新たに2つの安全に関する活動指標(KPI)を導入しました。「安全成熟度」は「安全宣言」の浸透度を見える化が難しい意識レベルまでを含めて計るもので、「リスクアセスメント」は新規の事業、プロジェクト、設備の安全性を評価するものです。当社グループはこれらのKPIに対する進捗状況を測定しており、改善に活かしています。

労働安全・衛生ワーキンググループでは、ISO45001に準拠したグループ安全マネジメントシステムを構築しており、下記の11の項目について共通安全基準を導入しています。

- ・ マネジメントコミットメント
- ・ 3S(整理・整頓・清掃)
- ・ KY(危険予知)
- ・ 安全ルール
- ・ 火災リスクアセスメント
(火災による地域やお客様への影響を評価し、BCPを強化)
- ・ 協力会社の安全管理
- ・ ホイスト・クレーン*1作業
- ・ タイヤ空気充填作業
- ・ 許可が必要な閉所作業(酸欠等)
- ・ 監査
- ・ 再発防止

災害発生状況

2019年は、当社グループ4,606か所の生産・物流拠点や小売店で29件の重傷災害*2が発生し、大変残念なことに1名の方が労働災害で亡くなりました。日本国内のブリヂストンの拠点における2019年の労働災害発生状況は、度数率*3は全国製造業平均及びゴム製品製造業平均のいずれも下回りましたが、強度率*4は両平均を上回りました。また、2019年からは、グローバルでの度数率についても、データの集計を始めています。その結果、従業員の度数率は2.96、協力会社の度数率*5は1.99となりました。

当社グループの安全に関するデータは、第三者機関であるロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッドによって検証・確認され、情報の正確性と透明性の確保に努めています。今後も重傷災害の発生ゼロを目指して、「ブリヂストン共通安全規定項目」を軸に、ブレない、妥協しない、例外をつくらない安全活動を推進していきます。

*1: 巻上装置・横行装置により、動力を用いて荷を吊り上げ、水平に運搬するための装置
 *2: ブリヂストングループでは「重傷災害」を右記のように定義しています。指の第一関節以上の切断、失明、骨折(手足の指や片方の手足、ひびを除く)、または1か月以上の通院
 *3: 度数率=(死傷者数/延実労働時間数)×1,000,000
 *4: 強度率=(延労働損失日数/延実労働時間数)×1,000
 *5: 2019年下半期結果

